

医療・教育・福祉の連携について

1. 大人の発達障がい

【報告内容】

大人の発達障がいへの支援体制について(きらりのR3年度の活動報告)

【協議内容】

今後の目指すべき支援体制について

2. 市立小中学校と放課後等デイサービス

【報告内容】

ふくろう連絡便モデル事業の実施報告

【協議内容】

来年度の実施について

3. かかりつけ医と発達早期支援体制

【協議内容】

気になる子をかかりつけ医に情報提供する仕組みについて

1. 大人の発達障がい

継続タイプ

- ・乳幼児期や学齢期に障害児福祉サービス等の利用がある
- ・診断を受けたことがある

【課題】

- ① 児から者へのサービスへ移行し、利用できるサービスが変化
- ② 学校卒業による相談支援機関の喪失

新規タイプ

- ・乳幼児期や学齢期に障害児福祉サービス等の利用がなかった
- ・診断を受けたことがない

【課題】

- ① 本人や家族が発達障がいの理解や受容に時間を要する
- ② 初診時に医師や支援者が障がいの要因や現状に至るまでの経緯を把握しにくい

ハローワーク
福祉事務所
社会福祉協議会
学校
放課後等デイサービス 等

情報提供、つなぐ

連携強化

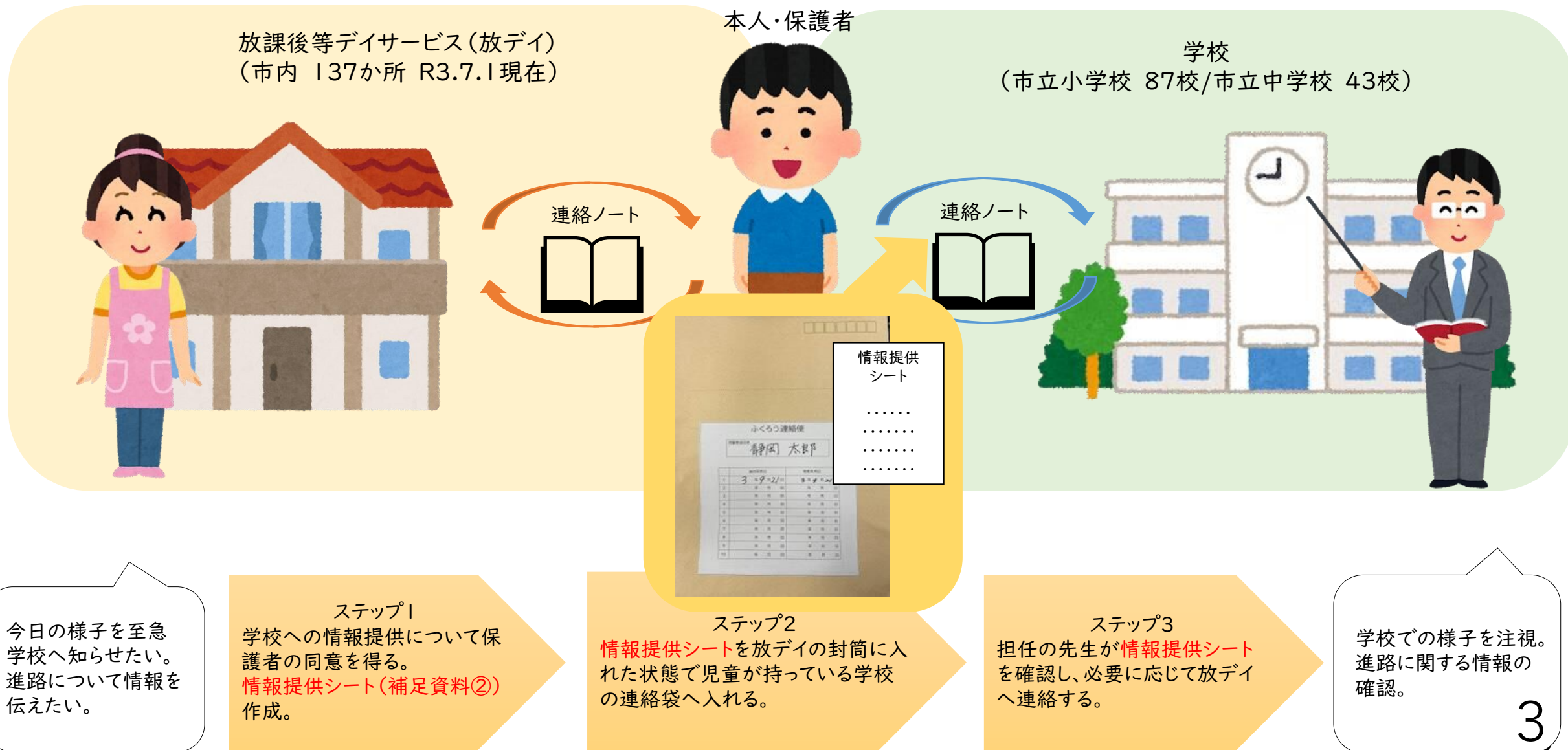
周知・啓発

静岡市発達障害者支援センターきらり

補足資料① 参照

2-1. 教育と福祉（学校と放課後等デイサービス）

1. ふくろう連絡便フロー図



2-2. ふくろう連絡便モデル事業報告

1. モデル事業参加校および放課後等デイサービス

葵区		駿河区		清水区	
番町小学校	西奈中学校	川原小学校	大里中学校	清水浜田小学校	清水第二中学校
・かぶとむしくらぶ番町	・という	・つばさ ・つばさセブン	・konoki石田 ・ハッピーテラス駅南	・ぱれっと	・あげは

2. モデル事業参加校および放課後等デイサービスの声

	学校	放課後等デイサービス	保護者
良かった点・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・電話でやりとりすることで放デイとの距離が縮まった。 ・家庭内のことを知ることができ、保護者へ配慮すべきことも予め知ることができたことは非常にありがたかった。 ・放デイの送迎時に担任が送り出しするようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の敷居が高いと思っている事業所にとっては、堅苦しくなくアプローチできる方法で、学校とつながる良いきっかけになる。 ・トラブルが起きた際、学校と放デイの情報をすり合わせて精査できた。(本人の勘違いなのか事実なのか見極めが難しい訴えが多い) 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものことを両方に知っておいてもらえることはありがたい。 ・思春期は性の問題や犯罪に巻き込まれることを心配している。密に情報共有してほしい。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・放デイから質問があった場合、書面での回答は負担あるため基本的に電話で回答したい。 →回答は電話とふくろう連絡便どちらでも可能 ・児童を介して書面をやりとりすることは児童によっては破棄する等の危険性もあるため直接学校へ届けてほしい。 →状況に応じて変更可能 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への説明に苦労した。⇨学校と放デイの連携が必要なのか理解してもらう機会になった。 →放デイ連絡会で説明会を実施する ・情報提供シートの内容によっては児童に持たせない方が良い場合がある。 →状況に応じて変更可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・あえて放デイにしか言っていないこともあるため事前に確認してほしい。

3. かかりつけ医と発達早期支援体制の連携について

